

## 釧路市立湖畔小学校

体験的な学習を通して、エネルギーの安定供給についての見方・考え方を育む。

# 炭鉱の町で学ぶエネルギーの未来

## 「実体験主義」のエネルギー教育

釧路湿原で有名な北海道釧路市は、日本で唯一となった坑内堀炭鉱が残る石炭の町でもある。太平洋炭礦（現・釧路コールマインの前身）の創業者が炭鉱労働者の子供たちの教育を目的に設立した経緯を持つ釧路市立湖畔小学校は、校庭から載積した石炭の山を望め、周囲には多くの炭鉱OBが住む。こうした状況を活用すべく、同校では3年生以上の社会や理科、総合的な学習の時間を利用して、身近にある石炭を軸にエネルギー環境教育を行っている。

具体的には、担当である釜范（かまやち）陽子教諭の「実体験主義」に基づき、昨年廃止になった石炭列車の見学や炭鉱OBからの聞き取り、近年使われなくなった石炭ストーブの体験授業や火力発電実験を行ってきた。



昨年廃止になった石炭列車を見学



石炭ストーブの体験授業風景（石炭の温かさを体験）



釧路石炭マップは「第30回 私たちの身のまわりの環境地図作品展」（環境地図教育研究会）で優良賞を獲得した

## どういう社会にしたいか考える力

炭鉱OBからズリ（選炭後の捨石）をレンガなどに再利用していたことを聞いて感心する児童や、「石炭の燃える匂いが好き」という児童など、反応は様々だ。釜范教諭は「五感を使って実際に体験することで興味を持てるようになってほしいです」と話す。

その期待どおり、5年生は体験授業を通して生じた疑問を数グループに分かれて調査したが、釧路と夕張で石炭の質が違うことを調べたり、石炭の輸入元や使い道を調べたり、釧路石炭マップを作ったりと、児童たちの興味は多岐にわたった。また、実体験という意味では2018年のブラックアウトも記憶に新しく、最適なエネルギーミックスについて調べたグループもあった。こうした姿に釜范教諭は、「自分たちで調べていくなかで、どういう社会にしていきたいかということを考える力をつけてほしいです」とさらに期待を膨らませていた。

（令和2年度個別助成）



### ●実施担当

釜范陽子 教諭

### ●活動のモットー

子供たちの中から「調べてみたい」という興味を引き出した。そのために、子供たちが本物の体験をし、経験者から直接話を聞くことを大切にしている。

### 学校概要



炭鉱従業員の子弟のために開校した創立102年の伝統校。地域とのつながりから、挨拶と「ありがとう」の言葉を大切にしている。

設立：1918年

生徒数：330人

所在地：北海道釧路市武佐2丁目27番16号



体験授業後の発表（わかったことなど）

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索